



に在る方がいよ。と、たとい。この本堂は政治家に志したらしい。新報社を興してその主筆になり、大に保護貿易を主張した。明治十四年二十歳、偶大嶺大隈重信に瞞目され、統計院秘書官に任ぜられた。明治十六年四月廿九歳、秋田日報主筆として一時秋田へ赴いたが、十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治十五年廿八歳、大隈の結成した立憲改進党に入り、矢野文雄、尾崎、小野、島田等と党勢の拡張に努めた。十一月十五日閣内閣に於て、東海経済新報を發刊した。この閣内閣に於て、妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治十六年四月廿九歳、秋田日報主筆として一時秋田へ赴いたが、十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治十七年三十歳、朝野新聞社に轉じて文筆を振った。改進党の解党に際して、大隈の行政機關を幸ひて脱党した。この閣内閣に於て、妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治十八年卅一歳、並尾から推されて東京府会議員に當選した。この閣内閣に於て、妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治十九年卅二歳、後藤家二郎の提唱して、丁度俱樂部に當選した。この閣内閣に於て、妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

明治二十年卅三歳、帝國會の創立に當選した。伊藤博文が総理大臣となつた。伊藤は長州の人物で、明治の最高指導者である。明治四十二年ハルビン駅頭で朝鮮人に暗殺された。帝國會は貴族院と衆議院にわけられた。明治二十一年卅四歳、後藤家二郎の提唱して、丁度俱樂部に當選した。この閣内閣に於て、妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。十一月に歸京して海島に母嶮嶮と妹の寿榮を東京へ迎え暮らした。

に考加す。二師団増設に反対した。十二月廿五日議会を解散す。

一 同四年六十一歳 長尾豊太郎が二の歳十二月廿六歳で死去した。即位、御大典に参列して勲二等瑞宝章を賜わす。三月廿十二回選挙に当選す。対支二十一ヶ條問題に關して六月三日彈劾決議案を提出して対支政策の失敗を痛撃した。翌年旭日重光帝を擁護する。同六年六十三歳 議院解散。四月廿十三回選挙に当選した。翌年九月内閣更迭して衆議院となる。國民議院大会で選挙権普及の必要を力説した。同九年勲一等旭日大綬章を賜わす。この歳普選運動の陣頭に立つて普選案を提出した。議院解散。五月廿十四回選挙に当選した。七月議院で普選案は即時否決された。

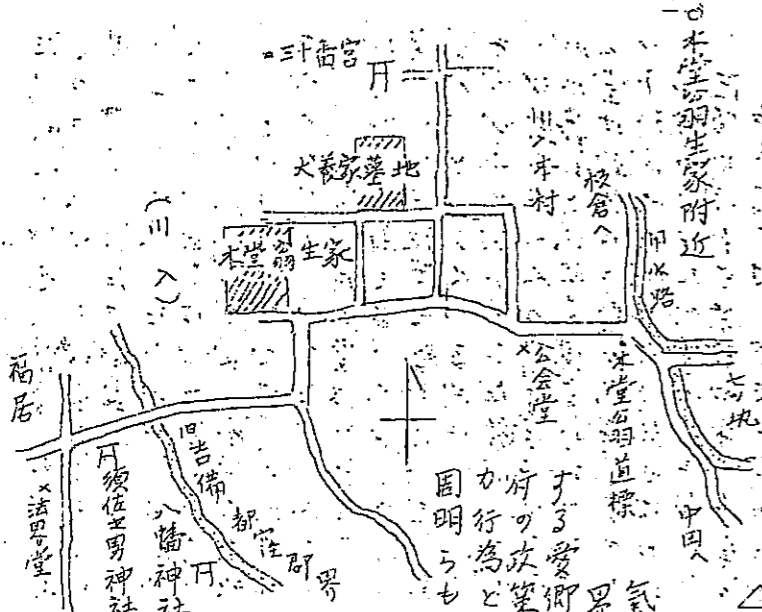
一 大正十年六十七歳 十一月四日原 首相は東京駅頭にて暗殺され、高橋是清が内閣を組織した。(原は盛岡藩吉家に生れた「原政三」大正十一年新聞記者などを経て政治家となり平民宰相として大氣を振った)。

一 同十一年六十八歳 九月一日國民黨を解散して革新俱樂部を組織した。この歳高橋内閣が解散して加藤友三郎が後継内閣を組織した。翌年八月廿四日加藤首相が死去して山本權次衛門内閣を組織した。九月一日閣東大震災があり、逓信兼文部大臣につく。十二月廿七日虎ノ門事件があり内閣総辞職す。翌年一月七日清浦奎吾が超然内閣を組織す。高橋是清が藤高内閣と共に三派護憲運動を起す。一月廿一日議院は解散し五月廿十五日選挙に当選した。六月七日清浦内閣は解散し加藤高明が首相となり、同月十三日三派連立内閣が成立した。この時逓信大臣に就任した。

一 同十四年七十一歳 三月普選案が通過し多年宿望の目的を達成した。五月十四日革新俱樂部は政友会に合同した。五月廿七日逓信大臣 議員を辞して政界を引退した。政友会の最高顧問に推挙された。七月議員総辞職の補缺選挙に当選す。一旦引退した久米邦武の懇請によりやむなく受諾した。大義の引退後、政友会の協力が破れて憲政会單獨内閣となる。昭和三年七十四歳 一月に田中内閣の下に議院解散し、二月廿十六回選挙に当選す。翌四月に故源文の移靈式に参列した。七月二日田中内閣辞職し、浜口内閣が成立した。九月廿九日田中総裁急死したので十月七日後任総裁に推された。十一月十四日浜口首相が東京駅にて遭難した。翌六月四月十三日浜口首相辞職し、若槻は総裁に挙げられ、新内閣を組織す。十一月十一日若槻内閣が辞職し、十二月大義に大命を降下し、十二月廿三日大義内閣が成立し外務大臣を兼任した。十二月娘婿の芳沢謙吉が外相となり、兼官を解かれた。大義は万年野党といわれていたが七十七歳の高齡で反対党の立場にある政友会に入りて總裁となり内閣を組織したことにつづく、本堂はなにに血まよつたのか晩節をあやまつた。

なるといふ通りである。本堂はこれに對して、心境に變化をきたしたのだ。といつたことは御存じの通りである。一月廿一日議院解散、二月廿八日選挙に当選した。三月十六日、中精中病氣のため前住した。五月廿五日首相官邸にて岩倉に襲われ、ピストルにて射殺された。十九日首相官邸で岩倉の盛儀が行われた。息がた、健の死に、大義のこのめがみに當つて力をつくした。ピストルで弾丸の音、日本が亡國に墮し、歴史の足音だつた。と述懐して、その遺難に際して、大義は勅使を遣わして、正三位に叙し、相花大綬章を授けられた。遺骸は青山の瑠璃に埋葬し、分骨は御里、川入の大義家墳地に移されたのである。

△本堂翁の遭難事件を倍にせ、五、二五事件という。これは昭和七年五月十五日に起つたからである。當時の横濱を簡記すると、大義が内閣を組織した時は、首相は不景氣で農村は極度に窮乏し、都市では失業者が続出して経済界に不安をきたして、隅戸に青年軍人を召んで組織する愛護會といふ業主義の結社が起つた。この青年軍人は現政府の政策が貧弱から招来したものと信じて、血氣にはやがて彼等の實力行爲となつたのであつた。右翼民間人の愛護會頭橋本三郎や大川圓明らも参劃し、陸海軍青年將校十三名は三班にわかれて、首相官邸警視庁、日本銀行、三菱銀行、政友会、本館、牧野内大臣官邸などを襲撃し、各界の恐慌による不況も、軍縮會議、外交方針の後退、政治政治の腐敗など、對する不満から昭和維新によつて國家主義的變革を行ふ農村救済、國防強化を計らうと劃策した事件である。この日、本堂は首相官邸に居り、夕食の時刻が迫つたので、食堂の前の廊下を歩いて、この時突然官邸の裏側の方で、たまたたたなる歩音が、この数分前に官邸の正面を、五時五十分頃であつた。この数分前に官邸の正面を、五時五十分頃であつた。この数分前に官邸の正面を、五時五十分頃であつた。



△本堂翁の遭難事件を倍にせ、五、二五事件という。これは昭和七年五月十五日に起つたからである。當時の横濱を簡記すると、大義が内閣を組織した時は、首相は不景氣で農村は極度に窮乏し、都市では失業者が続出して経済界に不安をきたして、隅戸に青年軍人を召んで組織する愛護會といふ業主義の結社が起つた。この青年軍人は現政府の政策が貧弱から招来したものと信じて、血氣にはやがて彼等の實力行爲となつたのであつた。右翼民間人の愛護會頭橋本三郎や大川圓明らも参劃し、陸海軍青年將校十三名は三班にわかれて、首相官邸警視庁、日本銀行、三菱銀行、政友会、本館、牧野内大臣官邸などを襲撃し、各界の恐慌による不況も、軍縮會議、外交方針の後退、政治政治の腐敗など、對する不満から昭和維新によつて國家主義的變革を行ふ農村救済、國防強化を計らうと劃策した事件である。この日、本堂は首相官邸に居り、夕食の時刻が迫つたので、食堂の前の廊下を歩いて、この時突然官邸の裏側の方で、たまたたたなる歩音が、この数分前に官邸の正面を、五時五十分頃であつた。この数分前に官邸の正面を、五時五十分頃であつた。





に於いて教育されたことがその礎になつてゐる。  
本堂は文章を能くし文書道に至つては莫に技藝に迫るものがあり、臨漢筆法は大家を凌ぐものがある。選挙毎に選挙者の所望するものには傾くことなく筆を振つて呉れた。御土では所持するものが多い。また趣味としては囲碁と刀剣を好み、その道の達人でもあった。

# 誰思古人裁畏後生

一 備中国には昔から多くの傑物が出てゐるが、奈良朝の学者吉備真備、鎌倉朝の臨濟宗開祖榮西禪師と筆頭にあげなくてはならぬ。この二人に比肩すべき近世期の偉大な人物は、大養木堂である。

△ 本堂が去つたあとを継いでその子健次政界に又つた。健は早稲田大学文学部を経て白樺同人の文章生活に入らんとした。父の地位、本堂崇拜の地盤票を受け継いで政界に入り、後述の吉田内閣の時、司法大臣に就任した。自由民主黨の佐藤栄作が造反疑獄に關係があつた時、指揮権を執つて佐藤を懐疑の矛から救ひ、吉田内閣のややく批難攻撃されたことは中年以上の人は固知のことと思ふ。健は昭和十五年八月廿八日病氣に罹つて六十四歳を没して、父祖傳來の女襲的選挙地盤を崩れ、二十余年間、二代に亘つて培つた道子に政界出馬を要請したが、道子はきつぱり辞退した。七十余年間、二代に亘つて培つた大養の政治生活は彼れをして善政の神と仰いだ。本堂信者の選挙民等の誠意と熱朴を思ふ時、逆めし悲しむことであつたらう。道子はその心境を左にあげて表明してゐることは誠に立派な態度だと思ふ。それは「政治家の地盤を女襲的なものに考へることに疑問を持つ、政治家として一切を放棄の面を自分の方意見はこれまで大養票に投じてきた選挙民の考へと必ずしも一致しない」と明言してゐる。

△ 選挙地盤は戦前は血族親族間における古襲的傾向があり、非合理的風潮であつた。たものであるが、最近の政界をみると更に親分子分の關係や、舞名讓では顔役の取引によつて選挙地盤の譲渡継承が行われてゐる。それだけ恰も当然のここのように古間に通用してゐるのだからおもしろいものである。本堂遺族がたゞ謀略者の格の福、東三郎の弁護にたつた弁護士の叔浦武雄は弾劾裁判長に就任したことのある人であるが、この人は奇習ある法律家で、故中野正剛などと親交があつた。

△ 大正十三年に始めて政界に入り、当選回数は衆院で六回、昭和三十四年に参院に替つた。この間、落選も多かつた。それは選挙と、うわのばおかしなもので、正しく勤めた時には落選する。福岡市選挙時、軍の政策を批判して落選。翼賛選挙の時には、推薦を断つて落選したことが多々ある。と述べてゐる。社会が成熟した時には正しく、ことごとく通用しなかつたものである。正しく、ことごとく通用しなかつた。選挙は自分自身でたつた。レ、と思つて道を選んでは、假令生涯が不遇に終つたと満足するような人にならば眞に立派な人である。

△ 系来回会議員は選挙や政治のためには私財を使い、果して国民のために貢献して善き風俗があつた。相當の資産を持つてゐる。スツカリなくして困窮状態になる。そこで家屋敷を売却して、残るものは僅かに「井戸と堀」を残して、国会議員のことにせよ、いよいよ、つてゐた。戦後は全く様相がかわつて選挙に当選すると一種の就取にありつ、た氣持ちは、なり、どこがうと、金か、は、り、が、止、派、を、建、て、衆、議、の、生、活、を、営、ん、で、い、る、人、が、え、あ、る。そこを改選ともなれば、腹を食ふ志心であらう。術策を練り、衆議院、買収、では、訪、問、も、公、知、と、横、行、す、る。これは大なり小なり地方選挙にもその傾向が流れてゐる。地方では街の類は、へ、し、が、は、り、を、き、か、せ、ん、の、弱、み、に、つ、け、込、ん、で、恫、喝、さ、え、か、た、え、推、さ、れ、て、出、る、の、で、は、な、く、て、押、し、こ、め、ら、れ、る、と、い、う、始、末、だ、あ、る。いまの議員は、い、ま、の、議、員、は、い、か、な、る、誘、惑、名、義、取、り、は、な、く、て、純、然、だ、る、取、業、的、議、員、に、墮、落、し、た、か、の、感、が、あ、る。主、持、者、は、い、か、な、る、誘、惑、や、情、実、の、手、に、乗、ら、ず、人、の、笑、い、の、の、り、に、な、つ、た、り、小、馬、鹿、に、さ、れ、な、い、よ、う、良、識、と、勇、氣、を、も、つ、て、あ、げ、ま、な、い、こ、こ、に、は、い、つ、ま、で、た、つ、て、も、社、会、環、境、が、よ、く、な、る、善、い、な、い、。

(おわり) 一〇の項未完

吉備町挾川出身・岡山柳川電停前

## フルタ時計店

TEL ②2098

国鉄物資部指定・中国信販加盟店

遠近にかかわらす御用命下さい

## 丸中運送

吉備局電一七八

吉備町下撫川